

深まりゆく秋の肩越しに冬の気配が見え隠れする、そんな季節になりました。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶かたがたダイレクトメール冬号をお届け申し上げます。

多発する豪雨禍、真実異常な猛暑、連続来襲する大型台風、頻発する大地震、日本の自然には、かつてのような優しさや穏やかさがなくなってしまうました。

やれゲリラ豪雨だ特別警報だ、やれ猛暑日だ熱中症だ等々と、新しい気象用語を次々に発明しながら、のん気に構えていて本当に大丈夫なのでしょいか。

有名な「茹でガエルの実験」をご存じてございますか。

A B二つのフライパンに水を張り、カエルをそれぞれ数匹ずつ入れます。

そしてAは強火にかけ、Bは種火同然の極々弱火にかけるのです。

するとA群は全て飛び出して助かり、B群は全て茹で上がってしまうのです。

皆さん、このままでは私たち人類は、間違いなく全滅してしまいます。

不自然永久には続かずで、人類は今すぐ「自然」に返らねばならないのです。

私播磨屋助次郎は、この絶対的真実を三十年近くも警告し続けて参りました。

また一般国民相手ではダメだと気付いた平成二十二年からは、三億円もかけて大型トレーラー十台を新調し、自らも運転して天皇二代への警告に切り替えました。

そして今、自身の健康問題が出来し「遠慮などしている場合ではない。乾坤一擲の大勝負に出よう」と腹を括ったのです。詳しくは同封小冊子をご覧ください。

なお、本ダイレクトメールは、これが最終号になります。長年月に亘るお付き合い合、誠にありがとうございます。どちら様も、どうぞお元気で、さようなら。

平成三十年 十一月

紅葉便り届き始めるころ

あるじ 播磨屋助次郎 敬白